

# 定期作況報告

(第3号 平成24年7月20日現在)

地方独立行政法人北海道立総合研究機構  
農業研究本部 上川農業試験場

## 1. 気象概況

6月下旬：最高気温は平年より1.5℃高く、最低気温は平年より2.2℃低かった。降水量は平年より28.8mm少なく、平年対比8%であった。降水日数は平年より3日少なかった。日照時間は平年より41.3時間多く、平年対比176%であった。夏日（最高気温25℃以上）は6日、真夏日（最高気温30℃以上）は3日であった。

7月上旬：最高気温は平年より0.9℃高く、最低気温も平年より1.5℃高かった。降水量は平年より2.9mm多く、平年対比110%であった。降水日数は平年より2日多かった。日照時間は平年より1.1時間多く、平年対比102%であった。夏日は8日、真夏日は1日であった。

7月中旬：最高気温は平年より0.9℃低く、最低気温も平年より3.0℃低かった。降水量は平年より40.9mm少なく、平年対比37%であった。降水日数は平年より2日少なかった。日照時間は平年より42.6時間多く、平年対比207%であった。夏日は5日、真夏日は無かった。

6月下旬から7月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	6月下旬			7月上旬			7月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	26.0	24.5	1.5	26.2	25.3	0.9	23.7	24.6	▲ 0.9	25.3	24.8	0.5
最低気温(℃)	11.3	13.5	▲ 2.2	16.4	14.9	1.5	12.6	15.6	▲ 3.0	13.4	14.7	▲ 1.3
平均気温(℃)	18.2	18.6	▲ 0.4	20.7	19.7	1.0	17.8	19.6	▲ 1.8	18.9	19.3	▲ 0.4
降水量(mm)	2.5	31.3	▲ 28.8	32.5	29.6	2.9	24.5	65.4	▲ 40.9	59.5	126.3	▲ 66.8
降水日数(日)	1	4	▲ 3	5	3	2	3	5	▲ 2	9	12	▲ 3
日照時間(hr)	95.3	54.0	41.3	48.2	47.1	1.1	82.6	40.0	42.6	226.1	141.1	85.0

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

## 2. 作 況

### 1) 水 稲 : 平年並

事由：6月下旬は最低気温は低かったものの、日照時間が多く最高気温は高く経過し、7月上旬も好天に恵まれたことから、生育は順調に進み、幼穂形成期は平年並から2日早く、止葉期はほぼ平年並であった。しかし、7月中旬は最低気温が低く経過し、その後の生育はやや遅れてきている。また、低温による不稔の発生が懸念される。

7月20日現在の主稈葉数は平年に比べ0.1~0.3枚多く、㎡当たり茎数は平年対比で「ほしのゆめ」「きらら397」が114%、「ななつぼし」も108%で平年より多かった。草丈は平年より3~5cm程度低かった。

以上、㎡当たり茎数は平年より多いが、生育は平年並みであることから、目下の作況は「平年並」である。

表2 生育期節

品種名	苗	幼穂形成期(月・日)			止葉期(月・日)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
ほしのゆめ	成苗	6.22	6.24	△2	7.09	7.10	△1
きらら397	成苗	6.25	6.25	0	7.13	7.12	1
ななつぼし	成苗	6.22	6.23	△1	7.09	7.10	△1

注1) 平年値は前年7カ年中平成20年、平成21年を除く5カ年の平均。

2) 幼穂形成期の判定基準：全主稈幼穂長2mm。

3) 止葉期：全茎の40~50%の止葉が展開した日。

4) △は平年より早を示す。

表3 7月20日現在の本田生育

品種名	苗	主稈葉数(枚)			茎 数(本/㎡)				草 丈(cm)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較
ほしのゆめ	成苗	10.3	10.0	0.3	864	757	107	114%	76.7	79.6	▲ 2.9
きらら397	成苗	11.4	11.2	0.2	850	748	102	114%	69.4	74.0	▲ 4.6
ななつぼし	成苗	10.6	10.5	0.1	766	709	57	108%	79.6	83.3	▲ 3.7

注1) 平年値は前年7カ年中平成20年、平成21年を除く5カ年の平均。

2) ▲印は平年に比べて減を示す。

2) 秋まき小麦 : やや不良

事由：6月第6半旬～7月第1半旬は気温が平年より高く経過したが、6月第5半旬および7月第3～4半旬は気温が低く経過したため、登熟は緩慢で成熟期は平年並となった。出穂期は平年より5日早く、登熟期間は平年より長かった。稈長は平年より短く、穂長は平年よりやや長い。穂数は平年を大きく下回っている。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表2 7月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名	出 穂 期 (月日)			成 熟 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
きたほなみ	6.4	6.9	△5	7.19	7.19	0

品 種 名	稈 長 (cm)			穂 長 (cm)			穂 数 (本/㎡)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
きたほなみ	75	86	▲11	8.9	8.5	0.4	529	711	▲182

注 1) 平年値は、前7か年中、平成19年、22年(収穫年度)を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早、▲は平年より減を示す。

3) 春まき小麦 : やや良

事由：6月第6半旬～7月上旬は高温少雨傾向に、7月中旬は低温に経過したものの、前報に引き続き生育は概ね順調であった。稈長、穂長、穂数は平年を上回っている。なお、7月9日、12日の降雨により、中程度の倒伏が発生した。

したがって、目下の作況はやや良である。

表3 7月20日の春まき小麦の生育

品 種 名	稈 長 (cm)			穂 長 (cm)			穂 数 (本/㎡)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
春よ恋	97	87	10	8.9	8.5	0.4	493	460	33

注 1) 平年値は、前7か年中、平成20年、22年を除く5か年の平均値。

4) 大豆 : 平年並

事由：6月下旬の高温と乾燥により、前報に引き続き茎の伸長は抑制気味であったが、7月第2～3半旬のまとまった降水により、主茎長は急速に伸長した。平年に比べ開花期は2日遅く、主茎長は長く、分枝数は多いが、主茎節数は同程度である。

したがって、目下の作況は平年並である。

表4 7月20日の大豆の生育

品 種 名	開 花 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較
ユキホマレ	7.13	7.11	2

品 種 名	主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数 (節)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
ユキホマレ	70.6	61.8	8.8	10.4	10.3	0.1	7.3	6.4	0.9

注 1) 平年値は前7か年中、平成18年、22年を除く5か年の平均値。

5) 小 豆 : 平年並

事 由：6月第6半旬～7月上旬は高温少雨に経過し、本葉の展開は進んだが、7月中旬は低温に経過したことから、やや緩慢となり、本葉数は平年並である。一方、主茎長、分枝数は平年をやや下回っている。

したがって、目下の作況は平年並である。

表5 7月20日の小豆の生育

品 種 名	主 茎 長 (cm)			本 葉 数 (枚)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
エリモショウズ	28.7	34.5	▲ 5.8	9.4	9.1	0.3	5.0	5.7	▲ 0.7
しゅまり	28.7	35.4	▲ 6.7	9.1	8.8	0.3	5.0	6.4	▲ 1.4

注 1) 平年値は、前7か年中、平成19年、20年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

第2号(6月20日現在)の小豆の生育の表に間違いがありましたので、以下の通り訂正をお願いします。

4ページ 表6 (下段の表の項目名) 誤：主茎節数(節)  
正：本葉数(枚)

6) ばれいしょ : 平年並

事由：開花始は平年より4日早かった。前報に引き続き少雨により茎の伸長が抑制され、茎葉の繁茂が少なく畦間は空いている。塊茎形成期の少雨により上いも数は平年より少ないが、7月9日、12日の降雨により干ばつは解消したため、上いも平均一個重は平年よりやや重い。上いも収量は平年をやや下回っているが、でん粉価は平年より0.7ポイント高い。

したがって、目下の作況は平年並である。

表6 7月20日のばれいしょの生育

品種名	開花始(月日)			茎長(cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵いも	6.21	6.25	△4	39.9	52.2	▲12.3

品種名	上いも数(個/株)			上いも平均一個重(g)			上いも収量(kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵いも	8.5	9.6	▲1.1	76	70	6	2859	2997	▲138

品種名	でん粉価(%)		
	本年	平年	比較
男爵いも	14.2	13.5	0.7

注 1) 平年値は、前7か年中、平成19年、22年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。